



SK-Electronics CO., LTD.

第11期株主通信

平成23年10月1日～平成24年9月30日



株式会社 **エスケーエレクトロニクス**

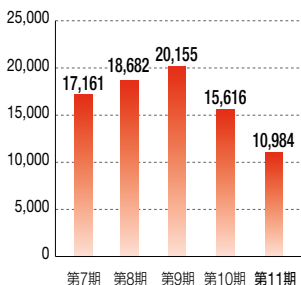
証券コード:6677

連結財務ハイライト

Consolidated Financial Highlights

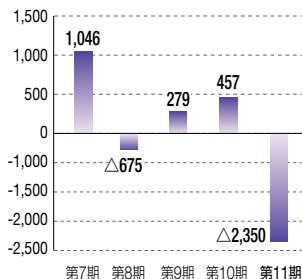
売上高

(単位:百万円)



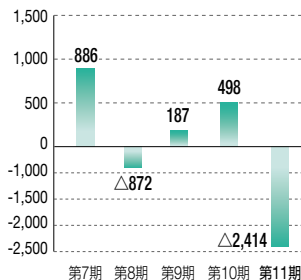
営業利益(△損失)

(単位:百万円)



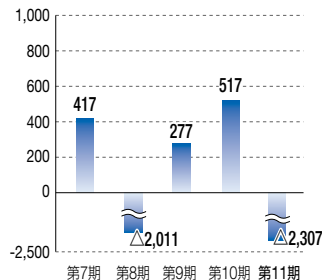
経常利益(△損失)

(単位:百万円)



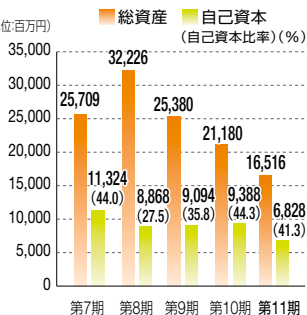
当期純利益(△損失)

(単位:百万円)



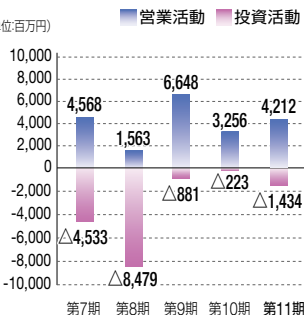
総資産・自己資本

(単位:百万円)



キャッシュ・フロー

(単位:百万円)



ごあいさつ

Top Message

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

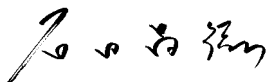
また平素より当社に対しまして格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社グループの第11期(平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)の業績をご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月



代表取締役社長



第11期(平成24年9月期)の業績について

上期は世界的な液晶テレビの販売低迷により、国内の大手電気メーカーが大幅な赤字決算となったほか、国内外の主要顧客においてドラスティックな組織の再編成が行われました。そのため液晶パネルの開発も大きく抑制されることになり、その結果フォトマスクの需要も低迷しました。その様な状況下でもスマートフォンやタブレットを中心とした中・小型の液晶パネルは比較的活発に動き出し、第8世代以下のフォトマスク需要は少しずつ回復に向かいました。しかしながら、依然として顧客からの価格引き下げ要請は継続しております。

上期の終わりに、シャープ株式会社とEMS世界最大手である台湾の鴻海グループとの業務・資本提携が発表されました。その発表を受け、下期には当社の業績を大きく左右する第10世代用フォトマスクの需要も回復するのではと期待を寄せましたが、回復は想定以上に遅れました。

その結果、当連結会計年度における当社グループの売上高は前年を大きく下回るものとなりました。当社グループでは、収益確保のために経営全般にわたる効率化や取締役の役員報酬の減額、従業員の管理職手当の一部カットを含めあらゆるコスト削減に努めてまいりましたが、収益の落ち込みを補うまでには至らず、大幅な損失を計上する赤字決算となりました。

これを受け、当期の期末配当金につきましては、誠に遺憾ながら無配とさせていただき結果となりましたことを、株主の皆様へ深くお詫び申し上げます。

▶ 連結決算の概要

(単位:百万円)

科目	平成23年 9月期	平成24年9月期				通期	前期比 (%)
		上期		下期			
		1Q	2Q	3Q	4Q		
売上高	15,616	2,693	2,165	3,655	2,469	10,984	△29.7%
営業損益	457	△456	△1,044	114	△964	△2,350	-
経常損益	498	△465	△1,135	152	△965	△2,414	-
当期純損益	517	△449	△1,009	144	△992	△2,307	-

第12期(平成25年9月期)の業績予想について

液晶テレビ市場の本格的な回復はまだ先と思われませんが、更なる高精細テレビ(4K2K)等 各社高付加価値テレビの発表をしており、少しずつではありますが回復に向かっております。そのような中、当社業績に対する影響が大きい堺ディスプレイロダクト株式会社の稼働率も徐々に上がってきており、第10世代用フォトマスクの需要もある程度回復するものと予想しております。また、第8世代以下のフォトマスク需要につきましても、主要顧客において行われた組織再編の影響も落ち着き、開発需要は回復してくるものと想定しております。

こうした市況の回復に加えて、

- ① 技術営業部の新設により顧客ニーズを速やかに実現し、競合他社との差別化を図る。
- ② 多階調マスクに次ぐ新たな高付加価値マスクの開発、及び拡販を推進する。
- ③ 低価格材料プロジェクトを発足し、抜本的な仕様・生産工程の見直しや、低価格材料の開発による製造原価の低減を推進する。
- ④ 世界唯一の第10世代用フォトマスクの供給メーカーとしての優位性を最大限に活かす。

これらの施策を進めることで売上・収益の確保に努めます。

しかしながら当社グループの業績は今期も、第10世代用フォトマスクの受注状況により大きく左右される可能性があります。従来、第10世代用フォトマスクのより正確な需要情報を入手し業績予想に反映させるよう努めてまいりましたが、結果的には過去の実績が示しているとおり、予想と実績に差異が生じております。今後も液晶パネル業界の需要動向は不透明な状況が続くことが予想される中、常に予想と実績に差異が生じる可能性がありますので、年度決算発表時に翌期の上期および通期の業績を合理的に予想することが困難な状況にあります。

従いまして、今期から第1四半期の決算発表時(2月上旬)に上期の業績予想を、第3四半期の決算発表時(8月上旬)に通期の業績予想を開示させていただきます。

なお、業績予想の開示方法変更に伴いまして、当期の期末配当金につきましても、現時点では未定とさせていただきます。

株主の皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

▶ 業績予想開示スケジュール

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
		上期									
								通期			
2月の第1四半期の決算発表時に 上期の業績予想を開示					8月の第3四半期の決算発表時に 通期の業績予想を開示						

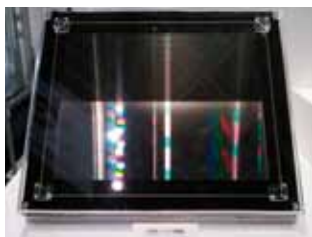
プリントエレクトロニクス市場への進出について

当社は液晶パネルのフォトリソグラフィ工程で使用される「フォトマスク」の製造・販売で、世界シェアNo1の企業です。そこで培った技術を応用し、現在新たな取り組みとして、今後成長が見込まれるプリントエレクトロニクスの市場への進出を目指しております。

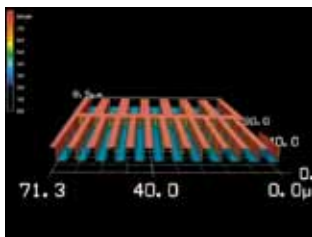
プリントエレクトロニクスとは、印刷や塗布技術を用いて電子部品を構成する素子や回路等を形成するものです。その取り組みについて、以下に紹介させていただきます。

Q1 どのようなものに取り組んでいますか？

当社のフォトマスク製造技術を応用展開し「厚膜レジスト原盤」の開発を行っております。この「厚膜レジスト原盤」は、ガラス基板に塗布した特殊なレジストをパターニングしたもので、それを「金型」としてプリントエレクトロニクスにおける印刷版を作成します。そして、その印刷版を使い有機ELディスプレイ、有機TFT、タッチパネル、電子ペーパー、導光板、マイクロレンズアレイなどの製品を製造することで、「環境負荷軽減」と「製品の製造コストの大幅削減」の実現に寄与できるものと考えております。



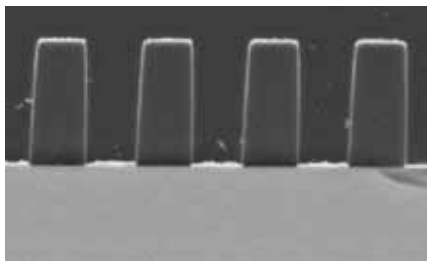
厚膜レジスト原盤



厚膜レジスト原盤 3次元画像

Q2 当社の「厚膜レジスト原盤」の特徴・優位性は？

長年培ってきたフォトマスク製造技術や設備を生かし、当社のフォトマスクの強みでもある①大面積、かつ、②高精細、そして、③高い重ねあわせ精度を実現しています。そして、それに加え④高アスペクト（パターン幅に対する高さの比）であることが大きな特徴です。



厚膜レジスト原盤
断面図

Q3 事業化の目処は？

現在は市場の見極めと技術開発を中心に取り組んでおり、事業化についてはまだこれからです。今年採択された、経済産業省主管「平成24年度 戦略的基盤技術高度化支援事業」での研究成果を実績に結び付け、早期に事業化できるよう進めてまいります。※詳細は平成24年9月10日付プレスリリース「『平成24年度 戦略的基盤技術高度化支援(サポイン)事業への申請結果』のお知らせ」をご覧ください。

連結財務諸表の概要

Summary of Consolidated Financial Statements

▶ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第10期 (平成23年9月30日)	第11期 (平成24年9月30日)
【資産の部】		
流動資産	10,726	7,520
固定資産	10,453	8,996
有形固定資産	10,091	8,379
無形固定資産	137	247
投資その他の資産	224	369
資産合計	1 21,180	16,516
【負債の部】		
流動負債	7,140	6,674
固定負債	3,398	2,084
負債合計	2 10,539	8,759
【純資産の部】		
株主資本	10,068	7,613
資本金	4,109	4,109
資本剰余金	4,335	4,335
利益剰余金	1,671	△ 783
自己株式	△ 48	△ 48
その他の包括利益累計額	△ 679	△ 785
その他有価証券評価差額金	53	43
為替換算調整勘定	△ 732	△ 828
少数株主持分	1,252	929
純資産合計	3 10,641	7,757
負債及び純資産合計	21,180	16,516

Point 1

資産合計は、前期末に比べ46億円減少し、165億円となりました。これは主に減価償却が進んだことや、売上減少に伴う受取手形及び売掛金の減少によるものです。

Point 2

負債合計は、前期末に比べ17億円減少し、87億円となりました。これは主に長期借入金等の有利子負債を順調に返済したことによるものです。

Point 3

純資産合計は、前期末に比べ28億円減少し、77億円となりました。これは主に利益剰余金の減少や、少数株主持分の減少によるものです。

▶ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第10期 (平成22年10月1日から 平成23年9月30日まで)		第11期 (平成23年10月1日から 平成24年9月30日まで)	
売上高	4	15,616	10,984	
売上原価		13,253	10,974	
売上総利益		2,362	9	
販売費及び一般管理費		1,904	2,360	
営業利益又は営業損失(△)		457	△ 2,350	
営業外収益		174	58	
営業外費用		134	122	
経常利益又は経常損失(△)		498	△ 2,414	
特別利益		110	102	
特別損失		28	3	
税金等調整前当期純利益又は純損失(△)		580	△ 2,314	
法人税、住民税及び事業税		43	35	
法人税等還付税額		△ 16	-	
少数株主損益調整前当期純利益又は純損失(△)		553	△ 2,349	
少数株主利益又は損失(△)		35	△ 41	
当期純利益又は純損失(△)		517	△ 2,307	

▶ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	第10期 (平成22年10月1日から 平成23年9月30日まで)		第11期 (平成23年10月1日から 平成24年9月30日まで)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	5	3,256	4,212	
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 223	△ 1,434	
財務活動によるキャッシュ・フロー	6	△ 3,311	△ 2,323	
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 57	50	
現金及び現金同等物の増減額		△ 336	504	
現金及び現金同等物の期首残高		2,838	2,551	
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増減額		50	-	
現金及び現金同等物の期末残高		2,551	3,056	

Point 4

第10世代用フォトマスクの受注減少に伴い、売上高は前期末に比べ29.7%減少し、109億円となりました。

Point 5

営業活動によるキャッシュ・フローは、当期純利益が大幅なマイナスとなった一方で、減価償却費や債権回収により42億円の収入となりました。

Point 6

財務活動によるキャッシュ・フローは、新たに借入を行った一方で、既存の長期借入金の返済を進めたため23億円の支出となりました。

会社・株式の概況 (平成24年9月30日現在)

Corporate Overview / Investor Information

■ 会社概要

社名	株式会社エスケーエレクトロニクス SK-Electronics CO.,LTD.
設立	平成13年10月1日
資本金	4,109,722千円
本社	〒602-0955 京都市上京区東堀川通り 一条上ル豊富田町436番地の2 TEL : (075)441-2333(代) FAX : (075)441-4291
従業員数	258名(連結)
事業内容	大型総合フォトマスク事業

■ 事業所

京都工場	(京都府久世郡)
滋賀工場	(滋賀県甲賀市)
東京営業所	(東京都港区)

■ 海外子会社

頂正科技股份有限公司(Finex CO., LTD.) (台湾)
……大型フォトマスクの製造・販売
SKE KOREA CO., LTD. (韓国)
……大型フォトマスクの販売
愛史科電子貿易(上海)有限公司(SK-Electronics Shanghai Co.,Ltd.) (中国)
……大型フォトマスクの販売支援

■ 取締役および監査役 (平成24年12月21日現在)

取締役会長	石田 敬輔	取締役	藪内 清視
代表取締役社長	石田 昌徳	取締役	野上 良忠
常務取締役	藤原 英博	監査役(常勤)	古田 一臣
取締役	前野 隆一	監査役	榮川 和広
取締役	塩尻 和也	監査役	堀 修史

■ 株式の状況 (平成24年9月30日現在)

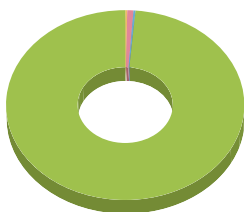
発行可能株式総数	327,600株
発行済株式の総数	113,684株
株主数	6,715名

■ 大株主

株式会社写真化学	7,751株(6.81%)
石田敬輔	7,569株(6.65%)
株式会社ニコン	5,684株(4.99%)
株式会社京都銀行	3,562株(3.13%)
株式会社みずほ銀行	3,262株(2.86%)
大日本スクリーン製造株式会社	3,150株(2.77%)
石田昌徳	3,037株(2.67%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,512株(2.20%)
株式会社りそな銀行	2,512株(2.20%)
日本生命保険相互会社	2,512株(2.20%)

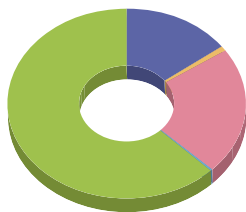
■ 所有者別株式分布

〈株主数別〉



金融機関	11名	0.16%
証券会社	13名	0.19%
その他国内法人	61名	0.91%
外国法人等	12名	0.18%
個人その他	6,618名	98.56%

〈所有株式数別〉



金融機関	16,673株	14.67%
証券会社	1,090株	0.96%
その他国内法人	24,439株	21.50%
外国法人等	258株	0.23%
個人その他	71,224株	62.64%

■ 株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
配当金受領株主確定日	毎年9月30日 (なお、中間配当を実施するときは毎年3月31日といたします。)
基準日	定時株主総会については毎年9月30日 (その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
公告の方法	電子公告の方法により行います。 ただし、やむを得ない事由により電子公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 (公告掲載URL http://www.sk-el.co.jp/top.html)
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-176-417 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時～17時) <u><※平成25年1月より郵送物送付先・電話照会先が 変更となります。></u> 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-782-031 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時～17時)
(ホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
上場証券取引所	大阪証券取引所(所属JASDAQ)

【株式に関する住所変更等のご照会およびお届出について】

株式に関するお手続き(届出住所・姓名などの変更、配当金の振込方法、振込先の変更など)のご照会およびお届出につきましては、証券会社での口座開設の有無に応じて、以下のいずれかの窓口にご連絡ください。

○証券会社で口座を開設されている株主様

当該証券会社にご連絡ください。

○証券会社で口座を開設されていない株主様

三井住友信託銀行にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様のご所有株式は、三井住友信託銀行に開設された口座(特別口座)に記録されております。

特別口座の詳細につきましては、上記の三井住友信託銀行の電話照会先にお問い合わせください。